11月チャプレン便り

笑顔を見たくて

わたしには、忘れられない体験あります。

あれは４歳頃だったと思います。ひとりで、紙にえんぴつで絵を描いていると、それを見ていた保育士さんが、「むっちゃん、すごく絵じょうずね。先生、感激しちゃった！」って、その絵を手に取って、じっくりと見て、はじけるような笑顔で、心から喜んでくれたんです。それから、その先生を喜ばせようと、何枚も何枚も絵を描いて、その先生をさがして、その絵を見せにいったものです。その先生の笑顔が見たくて。

あと、夏祭りに、盆踊りというのがあって、夜お庭で、ちょうちんをかざり、やぐらを囲んで、盆踊りをしていました。幼いわたしは、まわりの大人たちの踊りを見ながら、みようみまねで、好き勝手に踊っていましたが、わたしが踊っている姿を見て、数人のおかあさんたちが、「むっちゃん、おどりじょうずね。」って、目を輝かして、はじけるような笑顔で、喜んでくれたんです。この二つの出来事は、生涯忘れることのない、素敵な体験となりました。

その後のわたしの人生を思うときに、あの時の「〇〇先生とおかあさんたちの笑顔をもう一度見たい」というのが原点にあるように思います。

だれでも、自分の存在や働きが、だれかを笑顔にできるなら、それがいきがいとなり、生る喜びとなるのではないでしょうか。そのためにがんばりたい、と思うのではないでしょうか。

親はつい、こどもたちに「勉強をしなさい」と言ってしまいます。それで、喜んで勉強している子を見たことがありません。それよりも、今、こどもたちが夢中になっていることを、ほめ、その作品ややっていることをいっしょに喜び楽しむことが大切で、その子がのびのびとその子らしく成長できるように思います。

聖書の言葉　　「穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、・・・」

ペテロの手紙一　３章１６節前半　（新共同訳聖書）

石川三育保育園チャプレン　北　睦　夫